



高木瀬小学校 学校だより

第5号
R8.7.8発行
文責:橋口

フリー参観デーへのご協力をありがとうございました

6月7日(日)のフリー参観には、時々雨が降る足元の悪い中、たくさんの学校サポーターの皆様にご来校いただき、誠にありがとうございました。今回は1年生から4年生の親子活動を行いました。

今年度の親子活動は、昨年度の反省をふまえ、「もっとしっかりと親子でふれあえるように」「おうちの方が来られない子どもたちも寂しい思いをしないように」と、父親委員の皆様が何度も話し合いを重ねてくださいました。学年の教員とも入念に打ち合わせを行い、実現した大切な1日です。

4年生の「ペットボトルロケット」では、強い雨の中でおうちの方がずいぶん濡れてしまう場面もありました。また、3年生は体育館の調整上、午後の活動となりましたが、終了後のアンケートには、父親委員の皆様への労いや感謝の言葉が多数寄せられました。

いただいた感想の中には、「こうしたらもっと良くなるのでは」「ここを改善してほしい」といった前向きなご意見もありました。これらは父親委員の皆様とも共有し、来年度の実施にぜひ生かしたいと考えています。

子どもたちは、大好きなおうちの方と過ごした時間が本当に嬉しかったようで、はじける笑顔がたくさん見られました。温かいご協力をいただき、心より感謝申し上げます。



名前札と上靴～必要性を理解して自分から着用できるように～

本校では、これからの時代をしなやかに生き抜く子どもを育成するため、「主体性」を重んじる教育を大切にしています。「命・人権・法律」に関わる以外、できる限り子どもたちの自己決定や自己選択を尊重し、自分の人生の舵(かじ)を自分で取れる力を育てています。

しかし実際の学校生活では、「これも子どもに任せてよいのか」「教師が毅然と指導すべきではないか」と迷うことも多く、試行錯誤の連続です。

「自分で決めて、自分で行動する」という合言葉が浸透してきた一方で、教職員が指導や指示を控えた結果、名前札や上靴を着用しない子どもが増えてくるという課題も見られ始めました。

本校は860名を超える大規模校です。お互いの名前が分からない状態では、心を通わせたコミュニケーションが難しく、教職員間の情報共有にも支障が出ます。また、上靴を履かないことはケガのリスクを高めるだけでなく、共有のスリッパ等を汚して周囲に迷惑をかけることにもつながります。子どもたちにとっては「面倒」なことかもしれませんが、これらは誰もが気持ちよく、安全に過ごすために欠かせないことです。

そのため現在は、ただ形だけ守らせるのではなく、「なぜ名札を付け、上靴を履く必要があるのか」という本質的な必要性を、子どもたちへ繰り返し丁寧に指導し、定着を図っています。

ご家庭でもぜひ、「学校で名前札は付けている?」「上靴はちゃんと履いている?」と話題に挙げ、その大切さを一緒に振り返っていただけますと幸いです。

1週間履いた上靴は、土日で洗ってくるよう指導しています。汚れや匂いを落とした真っ白の上靴で新しい週を迎えるとそれだけで気分も上がるのです。やる気もでます!!!



おうちの方へ耳寄り情報



大学入試が今、大きく変わっているのをご存じでしょうか。

これからの入試で問われるのは、知識の暗記量ではなく、主体性や協働性といった「人物評価（コンピテンシー）」です。背景には生成 AI の普及や正解のない社会課題の増加があり、学んだ知識を社会でどう活かすかが重視されるようになりました。

文科省のデータによると、すでに全大学の約 9 割（93.6%）がこの人物評価を行う「総合型選抜（旧 AO 入試）」などを採用しており、推薦型も含めると入学者の半数以上を占めています。

この変化を受け、小学生の家庭で今もっとも大切なのは、日々の生活で「非認知能力（数値化できない力）」を育むことです。親がすぐに答えを与えず「どう思う？」と問いかけること、子どもの好きなことや趣味を応援して探究心を育てること、そして結果だけでなく挑戦したプロセスを褒めること。

これら家庭での関わりが、入試を含めた未来を生き抜く強力な土台となります。

人権集会を開きました～5年生の発表を参観して～

例年であれば、人権集会で発表する学年は教職員の話し合いで決めていました。担任は子どもたちの意見をできるだけ取り入れて発表内容（歌や詩、メッセージなど）を決め、練習を重ねて当日を迎えていました。この取り組みは、発表する学年だけでなく、見る側の学年にとっても人権を考える大切な機会であり、開催する意味は十分にあったと感じています。先生方の指導のもと、毎回完成度の高い見応えのある発表が行われていました。

しかし今年度は、子どもたちが人権をより「自分事」として捉え、日々の生活を振り返り、実際の行動につなげられるよう、「させる集会」からの脱却を目指して教職員で話し合いました。

そして決定したのが、5年生が総合的な学習の時間に「人権」について学んだ成果を発表する方法です。5年生は、いまの高木瀬小で気になる場面や改善すべき点について話し合い、どこが問題で、どうすれば良いのかを9本の劇やクイズにまとめました。具体的な展開もセリフも動きも全て5年生が作成し、練習も自分達で進め、担任の先生方は助言をした程度だということでした。

集会が終わった直後、5年生に「緊張したでしょう？」と声をかけると、「緊張したけれど、終わってしまって（もう練習がないと思うと）寂しい気持ちが大きいです」「あれだけ練習したのに、もっと大きく動けな

【取り上げた内容】

- ① いじめ
- ② あだ名
- ③ 暴力・暴言
- ④ 人によって態度を変える
- ⑤ 差別（男女・体格・力）
- ⑥ 悪口の郵便屋さん
- ⑦ 安心して授業を受けられない

かったのが悔しいです」という言葉が返ってきました。一人ひとりが主体的に取り組み、大きな学びを得たことが伝わってきます。

もちろん、一度劇を見ただけで、5年生の伝えたかったことをすべて理解し、行動を変えることは簡単ではありません。

そこで、7月1日（水）から8日（水）までの人権週間に、各学級で振り返りの時間を設けるよう担任の先生方をお願いしました。5年生が投げかけてくれたメッセージを、それぞれの発達段階に応じて学び直し、これからの生活に活かしてまいります。

お昼のお話会

7月1日の昼休みに本校読み聞かせグループ「ガラッパさん」が読み聞かせをしてくださいました。たくさん子ども達で「本の森」は大賑わい。読み聞かせ後は、それぞれの願いを短冊に書いて、笹に飾りました。「ゆーちゅーばーになりたいです」「やさいがたべられるようになりますように」「ふとらないように」など、可愛いものもあれば「世界平和」「高木瀬小をもっと良い学校にしたい」といったものまで、とてもバラエティに富んでいました。ガラッパさん、日本の良き伝統文化を体験できました。ありがとうございました。

